



デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの使用方法

この章では、デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの使用方法について説明します。

- デバイスのファイル システム、ディレクトリ、および外部ストレージ デバイスについての情報, [on page 1](#)
- ディレクトリの操作, [on page 3](#)
- ファイルの使用, [on page 6](#)
- アーカイブ ファイルの操作 (13 ページ)
- SSD の再パーティション化 (17 ページ)
- ファイル システムの使用例, [on page 19](#)
- ファイル システム パラメータのデフォルト設定, [on page 23](#)
- ファイル システムに関する追加情報, [on page 23](#)

デバイスのファイル システム、ディレクトリ、および外部ストレージ デバイスについての情報

ここでは、Cisco NX-OS デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルと、Cisco NX-OS デバイス上の外部保存について説明します。

ファイル システム

ローカル ファイル システムを指定するための構文は、`filesystem:[//modules/]` です。



Note デフォルトのファイル システム パラメータは `bootflash:` です。

次の表に、デバイス上で参照可能な各種ファイル システムの説明を示します。

Table 1: ファイル システムのコンポーネント

ファイル システム名	モジュール	説明
ブートフラッシュ	sup-active sup-local	アクティブ スーパーバイザ モジュールにある内部コンパクトフラッシュ メモリ。イメージファイル、構成ファイル、およびその他のファイルを格納するためにスーパーバイザ モジュールに搭載された外部 USB フラッシュ メモリ。初期デフォルト ディレクトリは bootflash です。
	sup-standby sup-remote	スタンバイ スーパーバイザ モジュールにある内部コンパクトフラッシュ メモリ。イメージファイル、構成ファイル、およびその他のファイルを格納するためにスーパーバイザ モジュールに搭載された外部 USB フラッシュ メモリ。
volatile	—	スーパーバイザ モジュールに搭載された揮発性ランダム アクセス メモリ (VRAM)。一時的または保留中の変更に使用されます。
log	—	現用系スーパーバイザ モジュールのメモリ。ファイル統計ログの保存に使用されます。
システム	—	スーパーバイザ モジュールのメモリ。実行構成ファイルの保存に使用されます。
debug	—	スーパーバイザ モジュールのメモリ。デバッグ ログの保存に使用されます。

ディレクトリ

bootflash: および外部フラッシュ メモリ (slot0:、usb1:、および usb2:) にディレクトリを作成できます。ユーザーはディレクトリからファイルを作成、保存、およびアクセスすることができます。

ファイル

ユーザーは、**bootflash:**、**volatile:**、**slot0:**、**usb1:**、および **usb2:** ファイル システムにファイルを作成し、アクセスすることができます。**system:** ファイル システムのファイルにはアクセスだけが可能です。**debug:** ファイル システムには、**debug logfile** コマンドを使用して指定されたデバッグ ログファイルを保存できます。

FTP、Secure Copy (SCP)、Secure File Transfer Protocol (SFTP)、および TFTP を使用すれば、リモート サーバーからシステム イメージ ファイルなどのファイルをダウンロードできます。デバイスは SCP サーバーとして動作できるので、外部サーバーからデバイスへファイルをコピーすることもできます。

ディレクトリの操作

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでディレクトリを操作する手順を説明します。

カレント ディレクトリの特定

カレント ディレクトリのディレクトリ名を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **pwd**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	pwd Example: switch# pwd	カレント ディレクトリの名前を表示します。

カレント ディレクトリの変更

ファイル システムの操作のためカレント ディレクトリを変更できます。初期デフォルト ディレクトリは **bootflash:** です。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. **cd** {*directory* | *filesystem*:*//module/*}[*directory*]}

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	cd { <i>directory</i> <i>filesystem</i> : <i>//module/</i> }[<i>directory</i>]} Example: switch# cd slot0:	新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの作成

bootflash: およびフラッシュ デバイス ファイル システムでディレクトリを作成できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **cd** {*directory* | *filesystem*:*//module/*}[*directory*]}
3. **mkdir** [*filesystem*:*//module/*]*directory*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) cd { <i>directory</i> <i>filesystem</i> : <i>//module/</i> }[<i>directory</i>]} Example: switch# cd slot0:	新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	mkdir [<i>filesystem</i> : <i>//module/</i>] <i>directory</i> Example: switch# mkdir test	新しいディレクトリを作成します。 <i>filesystem</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 <i>directory</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの内容の表示

ディレクトリの内容を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **dir** [*directory* | *filesystem:[//module/][directory]*]

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	dir [<i>directory</i> <i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash:test	ディレクトリの内容を表示します。デフォルト値は、現在の作業ディレクトリです。ファイルシステム名およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイル システムから削除できます。

Before you begin

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [*filesystem :[//module/][directory]*]
3. **rmdir** [*filesystem :[//module/]]directory*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem :[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash:test	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

	Command or Action	Purpose
		ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [filesystem :[/module/]]directory Example: switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

アクティブ スーパーバイザ モジュール上のセッションからスタンバイ スーパーバイザ モジュール（リモート）上のすべてのファイル システムにアクセスできます。この機能は、アクティブ スーパーバイザ モジュールにファイルをコピーしたら、同じファイルをスタンバイ スーパーバイザ モジュール上にもコピーする必要がある場合に役立ちます。

アクティブ スーパーバイザ モジュール上のセッションからスタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイル システムにアクセスするには、**filesystem://sup-remote/** コマンドまたは **filesystem://sup-standby/** コマンドを使用して、ファイルのパスにスタンバイ スーパーバイザ モジュールを指定します。

ファイルの使用

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでファイルを使用する手順を説明します。

ファイルの移動

ディレクトリ内のファイルを別のディレクトリに移動できます。



Caution

宛先ディレクトリに同名のファイルがすでに存在する場合は、そのファイルは移動対象のファイルによって上書きされます。

move コマンドを使用して、同じディレクトリ内でファイルを移動することにより、ファイルの名前を変更できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [filesystem:[/module/]][directory]
3. **move** [filesystem:[/module/]][directory/] | directory/]source-filename { [filesystem:[/module/]][directory/] | directory/ } [target-filename] | target-filename }

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [filesystem:[//module/][directory]] Example: switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	move [filesystem:[//module/][directory /] directory/]source-filename { {filesystem:[//module/][directory /] directory/}[target-filename] target-filename} Example: switch# move test old_tests/test1	ファイルを移動します。 ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。

ファイルのコピー

ファイルのコピーは、同じディレクトリまたは別のディレクトリのいずれかで作成できます。



Note

dir コマンドを使用して、コピー先のファイル システムに十分な領域があることを確認します。十分な領域が残っていない場合は、**delete** コマンドを使用して不要なファイルを削除します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [filesystem:[//module/][directory]]
3. **copy** [filesystem:[//module/][directory/] | directory/]source-filename | {filesystem:[//module/][directory/] | directory/}[target-filename]

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイル システムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	copy [<i>filesystem:[//module/][directory/] directory/]source-filename {filesystem:[//module/][directory/]} directory/</i>][<i>target-filename</i>] Example: switch# copy test old_tests/test1	ファイルをコピーします。ファイル システム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> の引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。 <i>copy</i> コマンドは、ftp、scp、sftp、tftp、および http プロトコルをサポートします。

HTTP または HTTPS を使用したファイルのコピー

HTTP または HTTPS を使用して、リモート サーバのファイルのコピーをローカル デバイスに作成できます。



(注) Cisco NX-OS リリース 10.4(3)F 以降、**copy http** または **copy https** コマンドは、Cisco Nexus スイッチで TLS バージョン 1.3 および 1.2 をサポートします。

手順の概要

1. (任意) **pwd**
2. (任意) **dir** [*filesystem:[//module/][directory]*]
3. **copy https:// username:password@directory/filename bootflash: vrf management**
4. **copy http:// directory/filename bootflash: vrf management**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	(任意) pwd 例 : switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(任意) dir [filesystem:[//module/][directory]] 例 : switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	copy https:// username:password@directory/filename bootflash: vrf management 例 : switch(config)# copy https://username1:pwd1@192.168.0.1/test.txt bootflash: vrf management	https オプションを使用して、指定されたファイルをリモート サーバからローカル デバイスにコピーします。
ステップ 4	copy http:// directory/filename bootflash: vrf management 例 : switch(config)# copy http://192.168.0.1/test.txt bootflash: vrf management	http オプションを使用して、指定されたファイルをリモート サーバからローカル デバイスにコピーします。

ファイルの削除

ディレクトリからファイルを削除できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** [filesystem:[//module/][directory]]
2. **delete** {filesystem:[//module/][directory/] | directory/} filename

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir [filesystem:[//module/][directory]] Example: switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	delete {filesystem:[//module/][directory/] directory/}filename Example: <pre>switch# delete test old_tests/test1</pre>	ファイルを削除します。ファイル システム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。<i>source-filename</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 Caution 1 つのディレクトリを指定している場合、delete コマンドではディレクトリ全体とその内容すべてが削除されます。

ファイル内容の表示

ファイルの内容を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show file** [filesystem:[//module/]][directory/]filename

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show file [filesystem:[//module/]][directory/]filename Example: <pre>switch# show file bootflash:test-results</pre>	ファイルの内容を表示します。

ファイル チェックサムの表示

ファイルの整合性をチェックするチェックサムを表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show file** [filesystem:[//module/]][directory/]filename {cksum | md5sum}

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show file [filesystem:[//module/]][directory/]filename {cksum md5sum} Example: switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum	ファイルのチェックサムまたは MD5 チェックサムを表示します。

ファイルの圧縮と解凍

Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して Cisco NX-OS デバイス上のファイルを圧縮および圧縮解除できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** [filesystem:[//module/]directory]
2. **gzip** [filesystem:[//module/][directory/] | directory/]filename
3. **gunzip** [filesystem:[//module/][directory/] | directory/]filename .gz

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir [filesystem:[//module/]directory] Example: switch# dir bootflash:	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	gzip [filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename Example: switch# gzip show_tech	ファイルを圧縮します。ファイルが圧縮されると、.gz サフィックスが付けられます。
ステップ 3	gunzip [filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename .gz Example: switch# gunzip show_tech.gz	ファイルを圧縮解除します。圧縮解除するファイルのサフィックスは、.gz である必要があります。ファイルが圧縮解除されると、サフィックスは .gz ではありません。

ファイルの最終行の表示

ファイルの最後の行を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **tail** [filesystem:[//module/]][directory/]filename [lines]

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	tail [filesystem:[//module/]][directory/]filename [lines] Example: switch# tail ospf-gr.conf	ファイルの最後の行を表示します。デフォルトの行数は 10 です。有効な範囲は 0 ～ 80 行です。

ファイルへの **show** コマンド出力のリダイレクト

show コマンドの出力は、bootflash:、slot0:、volatile:、またはリモートサーバー上のファイルにリダイレクトできます。また、コマンド出力のフォーマットを指定することもできます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **terminal redirection-mode** {ascii | zipped}
2. **show-command** > [filesystem:[//module/]][directory] | [directory /]]filename

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) terminal redirection-mode {ascii zipped} Example: switch# terminal redirection-mode zipped	ユーザー セッションに対して show コマンド出力のリダイレクションモードを設定します。デフォルトモードは ascii です。
ステップ 2	show-command > [filesystem:[//module/]][directory] [directory /]]filename Example: switch# show tech-support > bootflash:techinfo	show コマンドからの出力をファイルにリダイレクトします。

ファイルの検索

特定のストリングで始まる名前を持つファイルを現在の作業ディレクトリとそのサブディレクトリで検索できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **cd {filesystem:[//module/][directory] | directory}**
3. **find filename-prefix**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) cd {filesystem:[//module/][directory] directory} Example: switch# cd bootflash:test_scripts	デフォルト ディレクトリを変更します。
ステップ 3	find filename-prefix Example: switch# find bgp_script	指定したファイル名プレフィックスで始まるすべてのファイル名をデフォルトディレクトリとそのサブディレクトリで検索します。ファイル名プレフィックスでは、大文字と小文字が区別されます。

アーカイブ ファイルの操作

Cisco NX-OS ソフトウェアは、アーカイブ ファイルをサポートしています。アーカイブ ファイルの作成の他に、アーカイブ ファイルにファイルを追加したり、アーカイブ ファイルからファイルを抽出したり、アーカイブ ファイル内のファイルのリストを表示したりすることができます。

アーカイブ ファイルの作成

アーカイブ ファイルを作成し、アーカイブ ファイルにファイルを追加できます。次の圧縮タイプを指定できます。

- bzip2
- gzip
- 未圧縮

デフォルト値は gzip です。

手順の概要

1. **tar create {bootflash: | volatile:} archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tar create {bootflash: volatile:} archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list	アーカイブ ファイルを作成し、アーカイブ ファイルにファイルを追加します。ファイル名は英数字で指定します（大文字と小文字は区別されません）。最大文字数は 240 です。 absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブ ファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。 bz2-compress、gz-compress、および uncompressed のキーワードは、アーカイブにファイルを追加するとき（または後で追加するとき）に使用する圧縮ユーティリティと、ファイルを抽出するときに使用する解凍ユーティリティを決定します。アーカイブ ファイルに拡張子を指定しない場合、デフォルト値は次のようになります。 • bz2-compress の場合、拡張子は .tar.bz2 です。 • gz-compress の場合、拡張子は .tar.gz です。 • uncompressed の場合、拡張子は .tar です。 remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。 verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。

例

次に、gzip 圧縮アーカイブ ファイルを作成する例を示します。

```
switch# tar create bootflash:config-archive gz-compress bootflash:config-file
```

アーカイブ ファイルへのファイルの追加

Cisco NX-OS デバイス上の既存のアーカイブ ファイルにファイルを追加できます。

始める前に

Cisco NX-OS デバイスでアーカイブ ファイルを作成しました。

手順の概要

1. **tar append** {bootflash: | volatile:} archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tar append {bootflash: volatile:} archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list	既存のアーカイブ ファイルにファイルを追加します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。 absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブ ファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。 remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。 verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。

例

次に、既存のアーカイブ ファイルにファイルを追加する例を示します。

```
switch# tar append bootflash:config-archive.tar.gz bootflash:new-config
```

アーカイブ ファイルからのファイルの抽出

ファイルは、Cisco NX-OS デバイス上の既存のアーカイブ ファイルに抽出できます。

始める前に

Cisco NX-OS デバイスでアーカイブ ファイルを作成しました。

手順の概要

1. **tar extract** {bootflash: | volatile:}archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: | volatile:}[/directory-name]] [verbose]

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tar extract {bootflash: volatile:}archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: volatile:}[/directory-name]] [verbose]	既存のアーカイブ ファイルからファイルを抽出します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。 keep-old キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。 screen キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されたファイルの内容を端末画面に表示することを指定します。 to キーワードは、ターゲットファイルシステムを指定します。ディレクトリ名を含めることができます。ディレクトリ名は、240 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルの名前を表示することを指定します。

例

次に、既存のアーカイブ ファイルからファイルを抽出する例を示します。

```
switch# tar extract bootflash:config-archive.tar.gz
```

アーカイブ ファイルのファイル名の表示



(注) アーカイブ ファイル名では、大文字と小文字は区別されません。

アーカイブ ファイル内のファイル名を表示するには、次のコマンドを実行します。

tar list {bootflash: | volatile:}archive-filename

例 :

```
switch# tar list bootflash:config-archive.tar.gz
config-file
new-config
```

SSD の再パーティション化

SSD 再パーティション化を構成して、設定ストレージの容量を増やすことができます。これにより、ログフラッシュストレージのサイズも増加します。この構成はシステムのリロード後に有効になり、追加の **cfg** および **logflash** ストレージ スペースによってブートフラッシュのサイズが減少する可能性があります。

SSD の再パーティション化を実行する前に、すべてのソフトウェア イメージ、構成、および個人データのバックアップを実行することをお勧めします。

リリース 10.5(1) 以降、スイッチ上の SSD パーティション サイズを予想される設定サイズに一致するように自動的に検出できます。ブートアップ中に **show logging log** または **show logging nvram** コマンドに情報 **syslog** が表示され、スイッチが予期しない SSD パーティション分割サイズで起動されたことを示します。

```
%PLATFORM-2-SSD_PARTITION_CHECK: Incorrect <device> partition size detected - please
contact
Cisco TAC for additional information
```

拡張パーティションスキームは、64 GB SSD を搭載したプラットフォームではサポートされていません。

手順の概要

1. system flash sda resize

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	system flash sda resize 例 : <pre>switch# system flash sda resize ? <CR> extended Cfg=1GB, logflash=39GB standard Cfg=64MB, logflash=418GB</pre>	永続ストレージのサイズを新しいスキームに変更します。

例

次に、標準サイズ変更の例を示します。

```
switch# system flash sda resize standard
```

```
!!!! WARNING !!!!
```

```
Attempts will be made to preserve drive contents during
the resize operation, but risk of data loss does exist.
Backing up of bootflash, logflash, and running configuration
is recommended prior to proceeding.
```

```
!!!! WARNING !!!!
```

```
current scheme is
sda      8:0    0 119.2G 0 disk
|-sda1    8:1    0   512M 0 part
|-sda2    8:2    0    32M 0 part /mnt/plog
|-sda3    8:3    0   128M 0 part /mnt/pss
|-sda4    8:4    0  114.5G 0 part
/isan/vdc_1/virtual-instance/guestshell+/rootfs/bootflash
|-sda5    8:5    0    64M 0 part /mnt/cfg/0
|-sda6    8:6    0    64M 0 part /mnt/cfg/1
|-sda7    8:7    0     4G 0 part /logflash

target scheme is
sda      8:0    0  64G|120GB|250GB 0 disk
|-sda1    8:1    0    512M 0 part
|-sda2    8:2    0    32M 0 part /mnt/plog
|-sda3    8:3    0   128M 0 part /mnt/pss
|-sda4    8:4    0   110.5G 0 part /bootflash
|-sda5    8:5    0    64M 0 part /mnt/cfg/0
|-sda6    8:6    0    64M 0 part /mnt/cfg/1
|-sda7    8:7    0     8G 0 part /logflash
```

```
Continue? (y/n) [n] y
```

```
A module reload is required for the resize operation to proceed
Please, do not power off the module during this process.
```

次に、拡張サイズ変更の例を示します。

```
switch# system flash sda resize extended

!!!! WARNING !!!!

Attempts will be made to preserve drive contents during
the resize operation, but risk of data loss does exist.
Backing up of bootflash, logflash, and running configuration
is recommended prior to proceeding.

!!!! WARNING !!!!

current scheme is
sda          8:0      0 119.2G  0 disk
|-sda1       8:1      0   512M  0 part
|-sda2       8:2      0    32M  0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3      0   128M  0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4      0 110.5G  0 part /bootflash
|-sda5       8:5      0    64M  0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6      0    64M  0 part /mnt/cfg/1
|-sda7       8:7      0     8G  0 part /logflash

target scheme is
sda          8:0      0 120GB|250GB  0 disk
|-sda1       8:1      0   512M      0 part
|-sda2       8:2      0    32M      0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3      0   128M      0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4      0     rem      0 part /bootflash
|-sda5       8:5      0   1.0G      0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6      0   1.0G      0 part /mnt/cfg/1
|-sda7       8:7      0    39G      0 part /logflash

Continue? (y/n) [n] y
A module reload is required for the resize operation to proceed
Please, do not power off the module during this process.
```

ファイルシステムの使用例

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでのファイルシステムの使用例を示します。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

次に、スタンバイ スーパーバイザモジュール上のファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash://sup-remote
12198912   Aug 27 16:29:18 2003  m9500-sflek9-kickstart-mzg.1.3.0.39a.bin
 1864931   Apr 29 12:41:59 2003  dplug2
  12288    Apr 18 20:23:11 2003  lost+found/
12097024   Nov 21 16:34:18 2003  m9500-sflek9-kickstart-mz.1.3.1.1.bin
41574014   Nov 21 16:34:47 2003  m9500-sflek9-mz.1.3.1.1.bin

Usage for bootflash://sup-remote
67747169 bytes used
116812447 bytes free
```

```
184559616 bytes total
```

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash://sup-remote/aOldConfig.txt
```

ファイルの移動

次に、外部フラッシュ デバイス上のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move slot0:samplefile slot0:mystorage/samplefile
```

次に、デフォルト ファイル システム内のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move samplefile mystorage/samplefile
```

ファイルのコピー

次に、slot0: ファイルシステムのルートディレクトリから、samplefile というファイルを mystorage ディレクトリにコピーする例を示します。

```
switch# copy slot0:samplefile slot0:mystorage/samplefile
```

次に、カレント ディレクトリからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy samplefile mystorage/samplefile
```

次に、アクティブ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュからスタンバイ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy bootflash:system_image bootflash://sup-2/system_image
```



Note **copy** コマンドを使用して、slot0: または bootflash: ファイル システムと、FTP、TFTP、SFTP、または SCP サーバーの間でファイルのアップロードおよびダウンロードを行うこともできます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイル システムから削除できます。

Before you begin

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [*filesystem* :*//module/*]*[directory]*
3. **rmdir** [*filesystem* :*//module/*]*directory*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem</i> : <i>//module/</i>] <i>[directory]</i> Example: switch# dir bootflash:test	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [<i>filesystem</i> : <i>//module/</i>] <i>directory</i> Example: switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ファイル内容の表示

外部フラッシュ デバイスのファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file slot0:test
configure terminal
interface ethernet 1/1
no shutdown
end
show interface ethernet 1/1
```

現在のディレクトリに存在するファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file myfile
```

ファイル チェックサムの表示

次に、ファイルのチェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum
583547619
```

次に、ファイルの MD5 チェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg md5sum
3b94707198aabefcf46459de10c9281c
```

ファイルの圧縮と解凍

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# dir
1525859      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile
...
switch# gzip volatile:Samplefile
switch# dir
266069      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile.gz
...
```

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します

```
switch# dir
266069      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile.gz
...
switch# gunzip samplefile
switch# dir
1525859      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile
...
```

show コマンド出力のリダイレクト

次に、出力を bootflash: ファイル システム上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > bootflash:switch1-intf.cfg
```

次に、出力を外部フラッシュ メモリ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > slot0:switch-intf.cfg
```

次に、出力を TFTP サーバ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > tftp://10.10.1.1/home/configs/switch-intf.cfg
Preparing to copy...done
```

次に、**show tech-support** コマンドの出力をファイルにダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > Samplefile
```

```
Building Configuration ...
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2003 Samplefile
Usage for volatile://
 1527808 bytes used
 19443712 bytes free
 20971520 bytes total
```

ファイルの検索

次に、現在のデフォルト ディレクトリ内でファイルを検索する例を示します。

```
switch# find smm_shm.cfg
/usr/bin/find: ./lost+found: Permission denied
./smm_shm.cfg
./newer-fs/isan/etc/routing-sw/smm_shm.cfg
./newer-fs/isan/etc/smm_shm.cfg
```

ファイル システム パラメータのデフォルト設定

次の表に、ファイル システム パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 2: デフォルトのファイル システム設定

パラメータ	デフォルト
デフォルト ファイル システム	bootflash:

ファイル システムに関する追加情報

ここでは、ファイル システムに関する追加情報について説明します。

ファイル システムの関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
ライセンス	『Cisco NX-OS Licensing Guide』
コマンドリファレンス	『Cisco Nexus 3000 Series NX-OS Command Reference』

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。